

8月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸YMCAちとせ幼稚園

長い夏休みが始まります。夏休みと聞くと、子どもたちは予定がはっきりわかっていなくても、「なんか楽しみ！ウキウキワクワク！」といった気持ちを覚えることでしょうか。私が小さい時は、夏休みを迎える前は「何をして遊ぼう？」「どこに行こうか？」など、考えるだけでもなんか楽しく、微笑んでいたような記憶があります。逆に毎年この時期を迎えると、嬉しそうな子どもたちを前に、「この季節がやってきた…」と悲痛な表情を浮かべる保護者を見るのも恒例の風景です。

幼児期の子どもたちにとって、本来夏休みは特にやらなければならないこともなく、たくさん与えられた時間をどう過ごすのか？ある意味自由であり、自由であるからこそ過ごし方が難しいと考える保護者も多いかもしれません。「何をさせたらいいのか？」「どこに連れて行けばいいのだろうか？」など、子どもたちが退屈をしないように考えれば考えるほど、子どもたちも「今日は何をするの？」「どこへ連れて行ってくれるの？」と指示を待つて過ごす日々が多くなるのではないのでしょうか？本来、子どもたちにとっては、決められた時間や場所、内容がない中で、持っている興味や関心をフルに活用して、遊びを見出していくことが大切であり、時には1人で、また場合によっては友だちと共に、何をして遊ぶか、どのように遊ぶか、誰と遊ぶかなど、自分で考え、それを実行していくことが必要です。その過程の中で小さな挫折や成功を繰り返しながら、人間関係を構築し、生きる力を養っていきます。目に見える成果物として期待はできませんが、目に見えない力を育んでいくはずで

しかし、時代の進化と共に、子どもたちの興味関心を引き出すような洗練されたアミューズメントパークはたくさん作られ、夏休みの過ごし方も大きく変容しています。その場所にさえ行けば、大人も子どもも楽しめるので、どこに行くのか？と計画することが夏の大きなイベントとなっている家族も少なくないと思います。行くことが悪いのではなく、受け身の遊びが当たり前になると、本来大事にすべき子どもたち自身が遊びを見出していく体験が減少していくことに注意すべきです。

今年は、2年目のコロナ禍の夏を迎えます。昨年同様、いつもの夏より外出する機会も減るかもしれません。そんな時だからこそ、子どもたちに夏の過ごし方を委ねてみてはどうでしょうか？自分でやってみようとしたことが、実現した時の経験は確実に力になっていきます。きっとそこには保護者の多大な苦労があることも理解した上で、この夏を子どもたちが健やかに生活できるよう祈っています。

【年主題】

『共に喜んで』～すべての歩みの中～

【年主題聖句】

一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、
一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。

(コリント信徒への手紙 I 12章26節)

8月主題 「やってみる」

聖句 「勇気を出しなさい。」(ヨハネによる福音書16章33節)